

オンラインで小中学校ともつないだ市民公開講座で、車いすバスケットの出合いや病気の向き合い方について話す碓井琴音さん



「車いすバスケットで前向きに」

札幌のチーム所属 碓井さん旭川で講演

車いすバスケットボール選手でパリ・パラリンピック出場を目指す碓井琴音さん(26)は北広島市での講演会が、旭川市の北都保健福祉専門学校で行われた。碓井さんは競技との出合いで「スポーツの楽しさを感じ、日本代表を目指せるなど、障害に対して前向きに捉えられるようになった」と語った。

旭川がんのリハビリテーション研修会実行委主催、旭川市共催。市民公開講座として1月31日に開催した。オンラインでも市内11小中学校、市総合庁舎をつなぎ配信された。

碓井さんは、バスケットに打ち込んでいた中学2年時、「骨肉腫」と診断され、右足膝下を手術で切断。その後、高校3年から車いすバスケットを始めた。現在、民間企業に勤めながら、「札幌ノースウィンド」に所属し、

競技を続けている。

治療の際、足の温存を医師から示されたが、走れるようにはならないとの説明を受けたといい、「パラ選手が義足で走っているのを見て、自分も(同じように)動けるようになりたいと思った。選んだ道が正しくなるよう頑張ろう」と思いを打ち明けた。

車いすバスケットから得たものとして「障害のある人のコミュニティに参加でき、応援してくれる人とのつながりが生まれた」と強調。また、義足や障害に関し「克服や打ち勝つというより、常に一緒にいるもの。うまく付き合って生きていく」と語った。

小中学生からの質問にも答え「(対等な)フラットに見てくれる友人が多かった。過保護すぎないのが良い」などと呼び掛けた。

(桜井則彦)